

ふるさとの伝統文化（秋）・稲刈り・秋祭り

～ふるさと三田の歴史と文化財～より

三田市地域創生部 市民協働室

文化スポーツ課（担当：山崎）

はじめに： 稲刈りが始まり、秋の実りの季節を迎えております。

農家のみなさんは、忙しい日々を過ごしておられます。

今回は、“ふるさと三田の歴史と文化財”のなかから、秋の稲刈りにまつわる、かつての年中行事にまつわる伝統文化や食文化を紹介します。

三田市域の今回の話をきっかけに、地域の暮らしを思い出し、語りあいながら、暮らしの伝統文化を語り継いでゆく機会にしていいただければ幸いです。

（1）

三田のかつての一年のくらしと食文化（三田市史より）

秋の行事

秋の暦、かつての云い伝えから

9月1日 二百十日（立春から数えて210日目。台風が訪れやすい日）

9月8日 白露（はくろ） 秋の気配が高まり朝晩は冷え込み、朝の野草にしらつゆが光る。

（旧暦8月1日頃）「草露白し」

9月9日 重陽の節句（菊の節句） 中国では、菊の花の気品と香りが邪気を祓い寿命を延ばすと
言われている。日本では栗ご飯を食べることから栗節句と呼ばれることが多い。

・栗節句（三田市域：10月9日・旧暦9月9日）・・・栗ご飯を神仏に供える。

9月11日 二百二十日（立春から数えて220日目。台風が訪れやすい日）

お月見：9月13日 仲秋の名月（旧暦8月15日頃）：月見団子・スス

キ・萩・桔梗を縁側に飾る。

（母子）七草（オミナエシ、ススキ）を供える

「芋名月」（貴志、須磨田）・・・団子に加えて里芋（ズイキイモ）を供える

「豆名月」（山田・貴志）枝なりの豆を庭の松の木に供える。（貴志は10月、ゆで豆）
「団子盗り」（三田市南部）他家のお団子を黙っていただくと、子どもの怖がり
が治るといふ言い伝え



写真 291 竹箕にのせて供えられた亥の子の笹（大川瀬）

9月20日 彼岸入り（彼岸入りから4日目が「彼岸の中
日」）、お墓詣り、お団子を供える。

9月23日 秋分 暑気も終わり、昼と夜の長さがそろふ日。
夏の名残のなかにも秋が見えかくれしは
じめる。 「暑さ寒さも彼岸まで」

～ 9月26日

9月25日ころ 「雷すなわち声を取（おさむ）」

このころから入道雲が見られなくなり

翳雲へ、雷の音も聞かれなくなる。

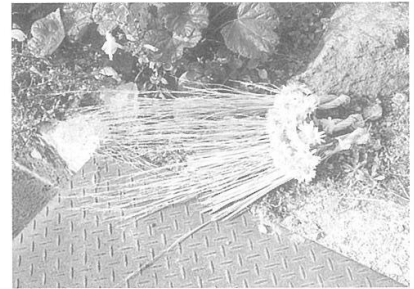


写真 292 門先に棄てられた亥の子の笹（大川瀬）

9月28日ころ 「蟄虫（かくれたるむし）戸をふさぐ」虫たちも冬籠りの準備をはじめ

10月 8日 寒露（かんろ） 秋分から15日後、草々には冷たい露が。（旧暦9月1日頃）

稲刈りにまつわる行事（三田市史より）

秋のかつての田の行事には、春先にお迎えした「田の神様」に今年の実りを感謝、来年の息災をお願いし、山に送るといふいわれがある行事が多くあります。

カリゴメ（刈り米）・・・稲刈りの最後の作業終了後の行事。

（母子）ズイキイモ、ゴポウ、油揚げの入ったかやく御飯を仏壇に供える。

納屋の稲コキ機（脱穀機）の前に1斗枡を置き御餅を供える。

（下内神・上槻瀬・下須磨田・貴志・波豆川）作業後にきれいに洗った鎌に御餅・ゼンザイを供える。

（上槻瀬・下須磨田）鎌を箕のなかに入れ、折敷に芋御飯、五目御飯を山盛りにして供える。

（大川瀬）鶏肉の混ぜご飯。

※「最後の稲株」：刈取りの際に3株だけ残し最後に刈り入れ、鎌などとともに祀る

（上内神・福島・山田・木器・大川瀬）

・・・穀霊を祀る信仰（田植え3本、苗代仕舞3束、刈り米3株）

コキゴメ（扱き米）・・・脱穀（稲扱き）の終了後の行事。

（下内神）夜にゼンザイ、（木器）混ぜご飯を脱穀機に供える

（大川瀬）刈り米の三株も脱穀する。（山田）刈り米の脱穀、混ぜご飯・南瓜を供える

この時のワラを正月の飾りに使う

スリゴメ（摺り米）・・・新米を最初に精米したものでご飯を炊いて農作業の終了を祝う。

カリゴメ、コキゴメよりご馳走を米すり臼に供える（現在は精米機）。混ぜご飯のところが多い。

亥の子（アキジマイ、11月の亥の日/11月10日）：収穫の最後のまつりごと。お餅は配った方がよい。

亥の月にあたる旧暦10月の亥の日の亥の時刻に餅を食べると病気にかからないという、中国の伝承と収穫儀礼が合わさる。

餅12個を農機具に一升枡におはぎを入れ供える。

夜、子ども達が藁を束ねた棒で家々を叩き、返礼として餅をもらう。

御供えのほうきは道に捨てられる。

「亥の子の餅を祝いましょう。人参の根も蕪の根もゴボウの根も、よく入りますように、盃三つで祝いましょう。」

そのほか：亥の子の日にコタツを入れ始めると、火の用心が良い（小野）、コタツが良く温まる（下須磨田）。

(3) 三田市域の秋祭り・神への感謝と語らい

三田の秋祭り

神輿、山車や布団太鼓、獅子舞・大阪と共通点の多い山車、播磨地域と共通点の多い布団太鼓
伊勢風の神楽

田楽（ホーホー踊り）・・・三田の特色：室町時代にさかのぼる伝統芸能

百石踊り・・・三田市域から兵庫県中北部に分布。室町時代の風流踊り・太鼓踊り

神に供物を奉げ、感謝と願いをおこなった神事のあとは、神への供物を参加者でいただく。

① 神への供物・・・海のもの、山の物、野のもの、神酒、洗米

餅・鏡餅、丸餅 ノシゴク（のぼし御供）・ウシノシタ餅

オオゴク（50cmの大餅：神事のあと切り分け）、キリゴク

チギリゴク（丸めずひちぎりにする）

蒸し米（糯米）・・・オキョウ、キョウ、オムシ、シラムシ

海のもの・・・鯛、昆布、スルメ、かまぼこ等

山の物・・・木になる物（栗・柿等）、たまに松茸、鯉

里のもの・・・ズイキイモ（里芋）、豆、生姜の株、枝なりのゆで黒豆（枝豆）、大根

その他・・・大根のナマス

② 直会・・・宮立ちの膳（末西）：枝なり枝豆、柿、栗、ピラモチ、大根のナマス

仕来り膳（母子）：牛蒡、人参、豆腐、竹輪煮しめ、小豆ご飯、味噌漬大根

（青野・乙原）：ゆでだこの刺身、しめ鯖の刺身、等

③ 家でのご馳走・・・鯖寿司：鯖を酢でしめて、お腹に寿司飯を詰めて棒状にかたち

を整え、寿司箱に並べて詰め重しをして作る。

スキヤキ：かつては、鶏肉とマツタケが多かった。

むすび

今回は、稲刈りと秋祭りにまつわるかつての行事や習わしについてお話し
いたしました。

今はなつかしい、三田市域のかつての年中行事や食文化をとおして、地域
の暮らしについて語りあう機会にさせていただきたいと思います。

参考文献・図出典：三田市年中行事調査委員会編『三田風土記』合冊版 三田市教育委員会 2000年
三田市市史編さん専門委員会編『三田市史』第9巻民俗編 2003年